

# 放射線科だより



令和5年 4月28日  
診療放射線科 渡辺 隆司

## 《痛風(つうふう)と偽痛風(ぎつうふう)》

風が患部に吹くだけで、激しい痛みが走ることから名づけられたといわれる痛風は、尿酸という物質が原因となっております。

体内で尿酸がたまると、血中の尿酸濃度が上がり、この状態が続くと関節の中で尿酸が結晶化します。この結晶はやがて体内に吸収されていきますが、その際、炎症をおこして激しい腫れや痛みを生じます。尿酸の結晶は低温で形成されやすいため、足の親指、足首など体温が低くなりやすい部位でよくおこります。

一方、尿酸以外の物質が原因となっておこるのが偽痛風です。偽痛風ではピロリン酸カルシウムが結晶化することで腫れや痛みを生じます。膝に多いとされていますが、肩、肘、手、首などにもみられます。関節痛が生じる仕組みは痛風と同じですが、ピロリン酸カルシウム結晶が関節内に沈着する主な原因はあまりわかっていません。

診断には血液検査、関節液検査の他にレントゲン検査も行われます。痛風では rat-bite lesion (ネズミにかじられた痕)、偽痛風では関節内の石灰化像が特徴とされますが、他の疾患(骨折、リウマチ、化膿性関節炎など)が隠れていないかの診断にもレントゲン検査は有用とされています。

痛風患者のレントゲン画像  
左足の親指



rat-bite lesion (赤丸)

偽痛風患者のレントゲン画像  
左膝関節



ピロリン酸カルシウム結晶の  
関節内沈着 (赤矢印)

## 痛風と偽痛風の違い

	痛風	偽痛風
原因物質	尿酸	ピロリン酸カルシウム
性差	圧倒的に男性 (20:1)	ほとんどのなし 高齢の女性にやや多いか
好発年齢	30~50歳代	60歳以上
好発部位	足の親指の付け根	膝関節
症状	我慢できないほどの痛み 1週間ほどで痛みは治まる	痛風よりは痛みは軽度とされ るが発熱を伴う
要因	肥満やストレス、暴飲暴食など の不摂生な生活	要因は不明
治療	発作時は鎮痛剤 痛みが治ったら尿酸値を下げ る治療	発作時は鎮痛剤 腫れがある場合はステロイド 剤の使用

痛風と偽痛風はともに発作を繰り返すことで  
症状は進行し、慢性化していきます。

関節が病む場合は早めに医療機関の受診をお勧めします。

